

原木及び木材製品の流通に関する見通し調査(平成30年6月実施分)

1. 調査対象 道産針葉樹原木の消費量が概ね年間1千m³以上の製材工場及び合板工場(調査対象工場数:109)
2. 調査実施時期 平成30年6月
3. 調査の内容 (原料在庫状況)前年同時期と比べた認識について選択式(「多い」「少ない」「変わらない」)により調査
(製品の荷動き)前年同時期と比べた認識について選択式(「良い」「悪い」「変わらない」)により調査

4. 企業判断指数の算出方法

[(回答全体のうち「多い」「良い」と回答した企業の比率(%)) - (回答全体のうち「少ない」「悪い」と回答した企業の比率(%))]
(最大値100/最小値-100)

5. 調査結果(回答工場数:98社 / 回答率:89.9%)

【①原料在庫状況(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
H29.9	-23	<i>-20</i>	<i>-22</i>	-	-	-
H29.12	-	-42	<i>-42</i>	<i>-47</i>	-	-
H30.3	-	-	-27	<i>-39</i>	<i>-43</i>	-
H30.6	-	-	-	-26	<i>-29</i>	<i>-30</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m³)

	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
当年	145,319	128,115	166,125	-	-	-
(前年)	153,073	137,052	163,819	163,061	145,319	128,115
対前年比	95%	93%	101%	-	-	-

(概況)

原木在庫は前年に比べて下回っており、依然として不足感・不安感があり、今後も引き続き前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

小径木や3.65mの丸太が不足気味/原料調達に不安/雨で出材出来ないことが不安/値上げ傾向だが原木不足/在庫がかなり少ない/年内の状況は厳しい/昨年が悪かったので「前年同時期より多い」とする

【②製品の荷動き(トドマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
H29.9	7	<i>0</i>	<i>-8</i>	-	-	-
H29.12	-	9	<i>-1</i>	<i>-6</i>	-	-
H30.3	-	-	2	<i>-6</i>	<i>-2</i>	-
H30.6	-	-	-	-7	<i>-3</i>	<i>-9</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m³)

	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
当年	216,811	214,410	190,366	-	-	-
(前年)	209,713	203,086	188,783	218,172	216,811	214,410
対前年比	103%	106%	101%	-	-	-

(概況)

荷動きはほぼ前年並み、今後は前年並みか若干下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

製品の出荷状況は昨年と同じ/受注は旺盛/原木高・製品安にて苦慮しているが、荷動きは前年並み/棧木等不足、梱包材は前年並み/建築物件が少ないようで、動きは鈍い/見通しはきびしくなりそうだ

【③原料在庫状況(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
H29.9	-18	<i>-22</i>	<i>-16</i>	-	-	-
H29.12	-	-61	<i>-63</i>	<i>-59</i>	-	-
H30.3	-	-	-55	<i>-57</i>	<i>-57</i>	-
H30.6	-	-	-	-38	<i>-45</i>	<i>-43</i>

原木在庫量(「林産工場動態調査」より)※月平均 (m³)

	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
当年	220,462	173,281	180,409	-	-	-
(前年)	236,551	203,646	231,761	239,167	220,462	173,281
対前年比	93%	85%	78%	-	-	-

(概況)

原木在庫は、引き続き前年を大きく下回っており、今後も引き続き前年を下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

原木は不足気味、動向に心配あり/中径木がない/年々原木の出材減少し、製品の注文に合わせて出荷することが難しい/伐採する人が不足のため原木不足が続くと思われる

【④製品の荷動き(カラマツ)】

企業判断指数 (太字は調査時点の現状認識、斜体文字は見通し)

調査時点	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
H29.9	6	<i>2</i>	<i>-6</i>	-	-	-
H29.12	-	26	<i>20</i>	<i>6</i>	-	-
H30.3	-	-	4	<i>5</i>	<i>2</i>	-
H30.6	-	-	-	6	<i>0</i>	<i>-4</i>

原木消費量(「林産工場動態調査」より) (m³)

	H29.7-9	H29.10-12	H30.1-3	H30.4-6	H30.7-9	H30.10-12
当年	297,111	309,295	286,973	-	-	-
(前年)	288,325	304,286	293,447	313,198	297,111	309,295
対前年比	103%	102%	98%	-	-	-

(概況)

荷動きは前年を若干下回る水準となっており、今後は前年並みか、徐々に下回る見通し。

(回答企業の主なコメント)

引き合いは横ばいだが、先行き不透明/受注旺盛だが、原木対応が懸念/原木価格高騰により利益が薄く、採算合わず/製材の受注は問題ない/原木不足・低質丸太の流通による歩留り低下が心配